

# 神奈川県立保健福祉大学の将来構想

2013年1月4日

## はじめに

我々は、「ヒューマンサービス」をミッションとする、このキャンパスに集いました。開学以来、我々は10年の歩みを通して「人（ヒューマン）」を大切にすることをこころがけ、教育、研究及び地域貢献に取り組んできました。今後の10年においても、我々はヒューマンサービスへの想いをもち続け、教育・研究・地域貢献を強力に推し進めます。これらを通して県民から本学に付託されたヒューマンサービスというミッションの実現に向けてさらに努力してまいります。

開学10周年を迎えるに当たり、我々は、改めて本学が打ち出した基本理念、つまり、①保健医療福祉の連携と総合化、②生涯にわたる継続教育の重視、③地域社会への貢献の三点を再確認しました。

さらに、開学してからの10年間の実践、そして保健医療福祉を取り巻く激しい社会変化の現状を踏まえ、我々は「健やかな人生を支えること」「関係性を創り出すこと」「自立・自律を育むこと」の必要性を痛感し、これらを時代のニーズに見合った視点として位置づけ、より着実にヒューマンサービスを実践してまいります。

我々は本学のミッションの実現に寄与する看護、栄養、社会福祉、リハビリテーション領域の専門職の養成を行います（表参照）。

学部・実践教育センター・大学院が有する機能を一層強化し、質の高い専門職の養成と卒業後の更なる専門能力の向上に寄与し得る教育を充実させます。

その際、卒業生の現場での実践知を学生に伝える機会を充実するように工夫します。さらに、教員・卒業生・地域の実践家が協働して研究・実践に取り組み、またその成果を地域に還元できる機会を増やします。これらにより、教育・研究・地域貢献の循環的發展を目指します。

我々は、ヒューマンサービスの実現に寄与しうる研究を積み重ねます。そのためには、まず、教員一人ひとりが担っている研究を充実させます。その上で、ヒューマンサービスの実現に向けて異なる専門を有する研究者同士がお互いに刺激しあいながら、地域社会に課題を求めた共同研究を推進します。そうした研究の充実が本学における教育・研究・地域貢献の支えとなるだけでなく、ヒューマンサービス実現の礎となると考えます。

我々はヒューマンサービスの実現に寄与しうる地域貢献を行います。質の高い専門人材を地域社会に送り出すと同時に、大学が有する豊かな知的財産を地域に還元し、教職員・学生・卒業生・修了生が協力し、地域社会の人々とともに地域社会という場においてヒューマンサービスを実現していきます。

取得可能な国家試験受験資格等		
看護学科	看護師、保健師、助産師、社会福祉士	養護教諭
栄養学科	管理栄養士	栄養教諭
社会福祉学科	社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士	
リハビリテーション学科	理学療法士(理学療法学専攻)	
	作業療法士(作業療法学専攻)	

## 1 保健医療福祉を取り巻く社会状況の変化

平成 15 年 4 月 1 日の開学時より、本学は「ヒューマンサービス」をミッションとして掲げ、「保健・医療・福祉の連携と総合化」「生涯にわたる継続教育の重視」「地域社会への貢献」という 3 つの基本理念を設定しました。

このミッションや基本理念が制定された背景には、「科学の著しい進歩に伴い、便利で豊かな生活ができるようになった一方で、科学が専門分化したことにより人間を全体として理解することが希薄になってきた」ことがあり、これが保健医療福祉サービスの質の継続的向上を阻んでいる大きな要因であると理解しました。

このことから、本学では「人」を単に専門的な一側面から捉えるのではなく、全人格的な対象とし、深い洞察力と共感によって切実なニーズを感じとり、的確に対応するために必要な人材養成を目指す教育実践に大学全体として取り組んできました。

10 年来、本学はヒューマンサービスというミッションのもとに、学部、実践教育センター、大学院の教育を通して、質の高い専門人材を輩出してきました。本学の卒業生は、ミッションを自覚した保健医療福祉の専門職として、県民からの期待に応えるべく、様々な分野で仕事に励んでいます。本学の卒業生・修了生及びその雇用主等を対象とした調査では、本学の提唱しているヒューマンサービスの考え方は、卒業生にとって専門職として働くうえでの大切な基礎となっていること、全人格的な対象として「人」を理解するという視点を持って仕事に取り組んでいること、多職種連携を意欲的に実践していることなど、本学の建学理念が卒業生の間で広く浸透し、社会から高く評価されていることが確認されました。

しかし、開学以降の 10 年を振り返ると、①急速に進む少子化・高齢化、②グローバル化と情報化の進展、③保健・医療・福祉人材の不足、④経済状況と雇用環境の変化、⑤東日本大震災後の価値観の変化、⑥地域社会における家族関係や人間関係の希薄化など、保健医療福祉を取り巻く社会状況に大きな変化がみられただけでなく、それに付随した多くの新しい課題が浮上してきました。

我々は、これらの変化や新しい課題に対して、積極的に対応していくことが大学の使命であり、健康で安全な暮らしが保障され、誰もが健やかな人生を送ることが出来る社会を作るためにも重要な意味を持つと考えます。

## 2 今後の 10 年で取り組むべき課題

開学以来のミッションと基本理念をベースとして展開されてきた本学の歩みを踏まえつつ、今後の 10 年という期間を展望すると、県民の保健医療福祉の向上に資する人材養成・地域貢献・研究をより充実したものにするためには、我々は以下の 3 点がこれからのヒューマンサービスの実践において重要な意味をもつものと考えました。

### ① 健やかな人生を支えることを大切にします。

「国民総幸福量」ともいうべき GNH (Gross National Happiness) の考え方に象徴されるように、経済的効率性優先の社会から人々が幸せを実感できる社会への転換は、社会の在り方を根源的に変える動きとして注目されます。また、県民の健康づくりについて正しい知識を伝え、適切な助言を行うことを通して、病気にならない取り組みを進めることが、県民の福祉向上を目指す専門職としての新しい役割と考えます。

### ② 関係性を創り出すことを大切にします。

社会病理の多くは諸々の関係性の崩壊、あるいはその機能不全に起因すると考えます。「無縁死」「孤独死」「孤立死」などは、現代における人間関係の希薄化を象徴的に表しています。また、東日本大震災によって我々は、「絆」や「和」の価値を再認識しました。関係性の構築は、社会的営みの前提ですが、我々は、それを自然に形成されるものではなく、育まれるべき要素として教育実践の中に位置づけたいと考えます。

### ③ 自立・自律を育むことを大切にします。

不確実性の現代社会において、保健医療福祉の専門職は「技術的合理性」の枠を超えたところで、複雑で、予測困難な諸課題に挑戦することを余儀なくされます。複雑な事柄に対して、学んだ知識と技能を生かして自ら考え、自ら判断して対応していく行動力と批判的思考力、そして自らの社会的責任に基づいて自らを律する倫理観が求められます。

我々は、これらの視点に立ち、今後の 10 年間に於いて特に以下の諸課題に取り組んでいきたいと考えます。

## (1) 教育について

県民が生きがいをもって健やかな人生を送ることが出来る社会づくりを目指して、高い倫理観と多様性を認め合う寛容の精神、コミュニケーション能力と総合的で幅広い教養を身につけ、ヒューマンサービスを実践する人間性豊かな専門人材を養成し、危機対応能力を持ち、自ら考え自らの意思で行動し、地域の保健医療福祉のリーダーとしての資質を備えた人材の育成を目指します。

生涯学習社会における主体的学習者の形成を目指し、卒業後の継続教育を大切にします。今後 10 年間で本学の卒業生は社会の中堅として活躍することが予測される一方、専門性の更なる向上のための学習ニーズが一層高まり、実践教育センターが益々重要な役割を果たすことが求められます。そのために、実践教育センターは学部との連携を強化し、現任者教育をより充実させます。また、卒業生と在学生の交流を強化し、卒業生の実践知が教育現場にフィードバックされ、研究成果の発表や必要な情報を交換したり共有したりする機会と場所を用意します。

また、大学院博士課程を設置し、ヒューマンサービスの理論的体系化に貢献できる研究者を養成し、教育・連携実践・研究・地域貢献の更なる強化を目指します。

## **(2) 研究について**

人材養成・連携実践・地域貢献を一層充実させていくためには、それらを支える研究活動をさらに強化することが必要となります。本学は、特に地域が抱える保健・医療・福祉の今日的課題に対応した研究を一層推進するため、開学 10 周年を機に、「地域貢献・研究センター」（仮称）を設置し、県内の大学や研究機関との連携を図りつつ、地域の活性化につながる研究を一層強化してまいります。

## **(3) 連携実践について**

臨床現場における多職種との連携・協働やチーム医療、地域包括ケアシステムの実践など、学問領域の枠を超えた総合的支援を目指し続けます。加えて、関係性を創り出すことを大切にする視点から、ボランティア活動など、学内外における学生の多様な自主的活動を推奨支援すると同時に、ヒューマンサービスの実践に必要なネットワークづくりや教育と現場のクロスファンクションによる連携教育を強化します。

## **(4) 国際交流と国際貢献について**

国際交流、特にアジアとの国際交流を活発化し、国際貢献をより積極的に行います。まず、アジアからの留学生を積極的に受け入れると同時に、日本人学生の海外での異文化体験や海外留学をサポートする体制を整え、グローバル意識と感性を備えた専門人材の育成を目指します。また、教員による国際交流を推奨することによって教育研究活動の国際化を推進し、アジア諸国における保健医療福祉の向上に貢献します。

## **(5) 大学運営について**

ヒューマンサービスを実践していくには、教育・研究・地域貢献を効率よく推進できる大学運営は欠かせません。今後引き続き、大学教職員のみならず、学生、卒業生、各職能団体、地域社会の方々などの支えと参画を得た、より開放的で効率の良い、学習者中心の大学運営の在り方を模索してまいります。また、少子化の進展に伴って大学間競争がより激しくなることが予測される中で、ヒューマンサービスの実現に相応しい質の高い入学者を確保し、県民のニーズと時代の要請を的確にとらえ、変化に対応できる個性豊かで魅力あふれる大学づくりを目指します。

### 3 重点的な取り組み

本構想に示された今後取り組むべき諸課題の中でも、以下の3点を重点的に取り組む課題として位置付け、具現化に向けて検討を進めることが必要であると考えます。

#### (1) 地域貢献・研究センター（仮称）設置について

「地域貢献・研究センター」（仮称）の設置は、地域貢献やその基盤となる研究の推進施設としての役割が期待されます。

このセンターにおいては、教職員・学生・卒業生・修了生が協力し、地域の人々とともに地域社会という場においてヒューマンサービスを実践し、地域課題に対応する研究活動や産学官の連携、臨床分野との連携協働を推進します。そこで得られた研究成果は、直接、地域社会における保健医療福祉の向上及び地域の活性化に生かされ、さらにはアジア地域における福祉の向上に貢献できるものと考えます。

#### (2) 大学院博士課程設置の検討について

開学10年の歩みを通して、我々は「人（ヒューマン）」を大切にすることを基本に置いてヒューマンサービスを実践してまいりましたが、今後の10年を見据えると、保健医療福祉分野における研究と生涯学習と地域貢献とを結び付けて強化していく必要があると考えます。

本学の修士課程においては高度専門職業人育成を目標に、既に4期生までを社会に送り出していますが、ヒューマンサービスのより一層の具現化に向け、各専門職が現場において質の高い連携・協働を実践し、またその体系化を図っていくためには、研究者・教育者・地域のリーダーを育成する大学院博士課程の設置が求められています。アジアからの留学生の受け入れも視野に入れて、県内の各大学院と関連機構との連携による教育環境の充実も含め、有効な大学院博士課程のあり方についての検討を具体的に進めてまいります。

#### (3) 地方独立行政法人化の取り組みについて

本学の建学精神を基盤とし、県民から与えられた使命を堅実に遂行していくため、大学運営の活性化と効率化を目指して地方独立行政法人への移行を検討します。「大学が持つ教育・研究の特性への配慮」「大学の持続的発展のための財政基盤の確保」を基本的視点に据え、法人化の持つ意義、法人化に当たっての基本的な考え方、法人の基本的な枠組みづくりの方向性、法人化以後の設置者と大学の新たな協力関係等について、全学的検討会議を立ち上げて具体的に検討を行います。